

## トップコミットメント

### 「0→1」(無から有を生む)を原点とし、 創業以来不変の理念である 「創造 貢献」をモットーに、 カシオは社会とともに進化し続けます



カシオはお陰さまで2007年6月に、創立50周年を迎えることができました。

1957年に世界初の小型純電気式計算機「I4-A」を発明して以来、「0→1」(無から有を生む)を開発の原点とし、多くのステークホルダーの皆様を支えられて、数多くの画期的な製品を開発してきました。

カシオにとって大きな転機となったのは、1972年に「カシオミニ」を開発したことです。この製品は1機種で600万台も売れた大ヒット商品となりました。これによって、パーソナル電卓市場という新しいマーケットが誕生するとともに、ICチップの需要を大量に生み出したことで、日本の半導体産業が飛躍的に発展することにつながりました。

このように、世の中に新しい価値を提供する独創的な製品は、新たな需要を創造するばかりではなく、新たな文化を生み出し、さらに関連する産業にまで大きな影響を及ぼすことを、カシオは身をもって体現しました。

カシオの経営理念は「創造 貢献」です。「創造」とは「普遍性のある必要を創造すること」であり、「誰にとっても必要でありながら、まだ世の中になかったものを新たに生み出す」ということです。一般の消費者の方は、必要な製品について、はっきりしたイメージをもっているわけではありません。モノづくりに携わる私たちが、具体的な製品として形に表して初めて「こういう製品が欲しかった!」と言われるのです。

カシオのこれまでの50年は、こうした製品を開発することによって、経営理念の実現に努めてきた歴史であるといっても過言ではありません。

現在のカシオの事業は、デジタルカメラや携帯電話など、競争は激しいが市場規模が大きな事業と、時計や電子辞書や楽器など、市場規模が安定して落ち着いている事業に大別できます。カシオでは前者を発展事業と位置

付け、独創的な製品開発により、新たな需要を創造することで、シェアと安定的な利益の確保に努めています。また、後者を基盤事業と位置付け、新たな価値を提供することで、継続的に高収益を確保することを最重要な課題として取り組んでいます。

カシオは創立51年目以降を第二創業期と位置付け、磐石の経営基盤を継続しつつ、新しいカシオへ移行を進めていきます。

まず、将来のカシオの継続的な成長のためには、新たな事業の柱となるテーマの開発が重要です。このために開発体制を強化し、価値のあるテーマの開発を推進していきます。また、各事業責任者が経営責任を全うするとともに、事業の選択と集中も含め、それぞれの事業経営体制の強化を図ります。さらには、利益・責任・挑戦といった経営の大原則を備えた若手の人材を積極的に登用し、経営を委ねていきます。

こうしてカシオは、新たな50年においても新しい文化創造の担い手として、社会に役立ち、人々に喜びと感動を与えられる企業であり続けます。

一方、一連の事業活動のあらゆる側面において、かけがえのない地球環境への配慮を怠らず、ますます重要性を増してきた環境問題に積極的に取り組み、持続可能な地球社会の形成に貢献していきます。

さらには、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを通じて、社会からの期待や要請を敏感に感じ取り、これに的確に応え、真に社会から必要とされる企業を目指します。

代表取締役社長

梶尾和雄